

運 搬

牛耕と前後して西アジアのメソポタミアで発明され、私たちの生活に大きな影響を与えたのが車輪の発明です。押したり引いたりという重労働を円運動でスムーズに行うことができる車輪は、画期的なアイデアでした。車輪を取り付けた牛車^{うしぐるま}は、牛耕によって生産された大麦や小麦といった穀物の運搬に用いられ、富の貯蔵・蓄積を可能としました。さらに、牛車を用いた運搬は、遠距離かつ大量な物資輸送を可能とし、交易の発達を促します。また、車輪が使用できない山道などでは、ウシの背に荷物が積まれ、交易に重要な役割を果たしました。ウシによる運搬により、これまでの自給自足的な生活が交換経済へと変容を遂げ、人類の文明や文化はますます発展してゆくことになります。

アジアの切手の中で、特徴的なものは、タイとラオスの牛車の切手でしょうか。実用的であるだけでなく優美なデザインとなっており、牛車だけで切手の主題となっています。日本では、2003 年に発行された切手（東海道五拾三次之内・大津）に荷物を運ぶ牛車が描かれていますが、実は、荷物運搬用の牛車は、江戸時代には京都・駿府・江戸・仙台と幕末の函館など大量の物資を輸送する必要がある限られた都市でしか使用が認められていませんでした。幕府は、人足と馬背による輸送を公的な輸送機関としていたことから、より便利な牛車と大八車の使用を制限し、伝馬町と馬持の保護にあたる必要がありました。車輛交通の未発達は、江戸時代の特色とされますが、それは馬を中心とする武家社会がもたらしたものでした。

中南米諸国では、サトウキビの運搬に用いられる牛車が多く描かれています。ウシはもともと南北のアメリカ大陸には分布しておらず、植民地時代にヨーロッパから持ち込まれたものです。大規模な農業に伴う運搬に牛車は必需品だったのでしょう。主に熱帯や亜熱帯の地域ではプランテーションと呼ばれる単一作物の大規模農業が行われています。主な栽培作物は、サトウキビやコーヒー、バナナなどで、そのほとんどが輸出向けとなります。各国の切手の図案から、コスタリカではコーヒー豆、コロンビアではバナナの運搬に牛車が用いられていたことがわかります。

欧州では、収穫された穀物を運ぶウシが多く描かれています。1944 年にナチス・ドイツの占領下で発行されたフランスの 2 + 3 フラン切手の図案では、麦の収穫が行われていますが、恐らくそのほとんどはドイツ向けのものでしょう。すべての作業が人力と畜力で行われていますが、背景の丘すべてが見事な農地となっています。同年中にフランスのほぼ全土が

開放されたため、この切手は 11 月 1 日に廃止されています。ルーマニアでは、第二次世界大戦が終結した翌年から続けて農業を取り上げた切手が発行されています。1946 年の 200 + 800 レイ切手は農業革命を取り上げたシリーズの中の一枚であり、1947 年の 2000 レイ切手の図案中の旗に記された「1 MAI」は 5 月 1 日、メーデーを記念する切手です。労働者の日ともいわれるこの日は、労働者が統一して権利を要求する日であり、図案は、牛車に農作物を積む作業風景です。このような切手が発行された背景は、食糧増産という現実的な理由だけではなく、農業こそが人々の日常生活そのものだからでしょう。

また、乗用の牛車^{ぎっしや}も各地で図案として採用されています。台湾の 2.50 ドル切手の画題は、中国北宋の都である開封の様子を描いた清明上河圖^{せいめいじょうがず}の一部です。牛車には、多くの荷が積まれ、屋根には鶏が乗り、イヌとブタがつながられています。ウマを連れた人物もあり、家財のほとんどを運んでいるように見えます。当時の風俗研究には欠かせない資料です。日本でも絵画を部分的に切り取り、乗用の牛車を題材とした切手が複数発行されています。平安時代に都の貴族が使用していた牛車ですが、平泉藤原氏 2 代基衡が造営した観自在王院からも牛車の駐車場である車宿^{くるまやどり}の跡が出土しています。武士の世になると姿を消した牛車は、貴族の威信財としての役割が大きかったと考えられます。

その他、イギリス領北ボルネオの切手は、一頭引きの轎^{そり}であり、スイギュウの背に人が乗っています。アジアには、ウシやスイギュウの背に乗る文化があり、タイの水牛レースは有名です。輸送ポルトガルの 50 センターボ切手は、お酒が好きな人なら木の樽の中身がマデイラワインであることに気付くでしょう。ウシが引いているのが牛車ではなく、轎なのは、構造が単純で壊れにくいことと、重量物を積載しやすくするための工夫でしょうか。

現在は、乗用車やトラックなどに輸送の役割を譲りましたが、牛切手をみると、ウシが家畜化の初期の目的であった肉、乳、皮革などの畜産物を提供するにとどまらず、その役力^{えきりよく けんいんりよく}（牽引力および駄載力^{ださいりよく}）をもって役務に従事し、人類の文明や文化を発展させてきたことがわかります。ウシが切り開いた道が現在の私たちの生活を支えているといえそうです。